

公 示

独立行政法人国際協力機構（以下「機構」という。）がコンサルタント等との業務実施契約（単独型）に基づき実施する予定の案件を公示します。

これら案件の選定に当たっては、企画競争（プロポーザル方式）を採用します。応募のための簡易プロポーザル作成に当たっては、以下の事項に留意した上で、当機構ホームページで公開している「プロポーザル作成要領」に従って作成願います。

なお、公示に関する照会は調達部（Tel:03-5226-6612, 6613）あてにお願いします。

2013年6月5日

独立行政法人国際協力機構
契約担当役
理事 小寺 清

【1. 簡易プロポーザル提出の資格】

簡易プロポーザル提出の有資格者は、平成25・26・27年度全庁統一資格を有する者、同資格を有していない場合は機構の事前資格審査を受けている者又は国際協力人材登録している者に限られます。

また、法人の場合、日本国で施行されている法令に基づき登録されている法人、個人（法人に所属する個人を含む。）の場合、日本国籍を有する方に限ります。

会社更正法（平成14年法律第154号）又は民事再生法（平成11年法律第225号）の適用の申し立てを行い、更生計画又は再生計画が発効していない者は、簡易プロポーザル提出の資格がありません。

国際協力人材登録者については、公示案件に応募する際、調達部受付（機構本部1F）（〒102-8012 東京都千代田区二番町5番地25 二番町センタービル）へ、簡易プロポーザル及び見積書とともに以下の（1）～（3）の書類（すべて原本が必要。コピーは不可。）を提出（郵送又は持参にて必着）していただく必要があります。

（1）住民票又は住民票記載事項証明書（海外在住の場合は、在留証明書）

平成15年10月以降（機構発足後）に国際協力人材部人材確保課又は調達部計画課に住民票、住民票記載事項証明書、戸籍謄本又は戸籍抄本のいずれかを提出した方は不要です。

なお、国際協力人材登録を一度削除されて、新たに登録を行う方は改めて住民票、住民票記載事項証明書、戸籍謄本又は戸籍抄本のいずれかの提出が必要となります。

（2）納税関係書類

1）納税証明書「その3の2」（未納額がない証明書：税務署発行のもの）

ただし、給与所得者の場合は源泉徴収票で可とします。

2）住民税納税証明書（区市町村発行のもの）

注1）各年の納税証明書の発行時期については、発行機関によって多少差異がありますので、各機関へ直接お問い合わせ下さい。発行時期に達していないため、当年度分の納税証明書を提出できない場合、または、納期経過未納額がある場合は、昨年分の納税証明書を提出して下さい。

注2）以下の方については、納税関係書類の提出は不要です。

a．当年度において、2回目以降のプロポーザル提出となる方（ただし、納税関係書類の有効期間が過ぎている場合は、再度提出が必要です。）

b．過去に海外に居住し、納税関係書類を提出できない方（ただし、海外居住の旨を記載した住民票を提出願います。）

c．被扶養者等納税義務のない方（ただし、非課税証明書を提出願います。）

d．現在海外に居住している方（ただし、在留証明書を提出願います。）

（3）消費税課税事業者届出書の控

消費税課税対象者は、上記の納税関係書類に加え、2年以内の税務署受付印のある消費税課税事業者届出書の控を提出してください。

この他、所属先を有する方については、派遣について所属先の同意が得られない場合は派遣できませんので、簡易プロポーザル提出前に必ず所属先の承認確認をお願いします。

また、国際協力人材登録者については、契約交渉時に過去1年以内の健康診断書（写）の提示をお願いします。

【2. 提出書類】

簡易プロポーザル作成に際しては、「プロポーザル作成要領」を十分参照願います。

「プロポーザルの作成要領」は、機構ホームページ「調達情報」中「コンサルタント等の調達」

（<http://www.jica.go.jp/announce/manual/guideline/consultant/index.html>）を参照してください（ハードコピーでの販売・配布は行っておりません）。

簡易プロポーザルは、以下の3つの文書から成ります。様式がありますので、上記の「プロポーザル作成要領」及びホームページ（同上）を参照願います。

（1）簡易プロポーザルの提出の頭紙

（2）簡易プロポーザル本体

業務の実施方針、業務従事者の経験・能力等

（3）見積書

見積書は簡易プロポーザルとは別に密封して下さい。なお、婚姻等で姓が変更になった場合は新しい姓で簡易プロポー

ザルを作成して下さい。また、変更後は必ず旧姓を併記して下さい。

【3．プロポーザルの提出方法】

簡易プロポーザルは、提出期限（時刻）までに、持参して下さい。郵送の場合は提出期限（時刻）必着とします。

【4．情報の公開について】

本公示により、プロポーザルを提出するコンサルタント等においては、その法人、個人、団体名を、コンサルタント等契約情報として機構ホームページ上に原則公表しますのでご承知下さい。

また、本公示により契約に至った契約先に関する情報を機構ホームページ上で公表することとしますので、本内容に同意の上で、プロポーザルの提出及び契約の締結を行っていただきますようご理解をお願いいたします。

なお、プロポーザルの提出及び契約の締結をもって、本件公表に同意されたものとみなさせていただきます。

具体的には、「公共調達適正化について」（平成18年8月25日付財計第2017号）に基づき、下記リンクのとおり契約に係る情報を公表します。（<http://www.jica.go.jp/announce/proper/domestic/index.html>）また、下記（1）に該当する場合は右リンクのとおり契約に係る情報を公表します。（http://www.jica.go.jp/disc/keiyaku_0701.html）

（1）公表の対象となる契約相手方

次のいずれにも該当する契約相手方を対象とします。

ア．当該契約の締結日において、当機構で役員を経験した者が再就職していること、又は当機構で課長相当職以上の職を経験した者が役員等（注）として再就職していること

注）役員等とは、役員のほか、相談役、顧問その他いかなる名称を有する者であるかを問わず、経営や業務運営について、

助言することなどにより影響力を与え得ると認められる者を含む。

イ．当機構との間の取引高が総売上又は事業収入の3分の1以上を占めていること

（2）公表する情報

契約ごとに、物品役務等の名称及び数量、契約締結日、契約相手方の氏名・住所、契約金額とあわせ、次に掲げる情報を公表します。

ア．対象となる再就職者の氏名、再就職先での現在の職名、当機構での最終職名

イ．契約相手方の直近3か年の財務諸表における当機構との取引高

ウ．契約相手方の総売上高又は事業収入に占める当機構との間の取引割合

エ．一者応札又は応募である場合はその旨

（3）当機構の役員経験者の有無の確認日

当該契約の締結日とします。

（4）情報の提供

契約締結日から1ヶ月以内に、所定の様式にて必要な情報を提供頂くことになります。

【5．プロポーザルの無効】

提出されたプロポーザルが次の事項に該当した場合、プロポーザルは無効となりますので、ご注意ください。

（1）提出期限後にプロポーザルが提出されたとき

（2）提出されたプロポーザルに記名、押印がないとき

（3）同一提案者（コンサルタント企業等）から、同一の案件に対し、従事予定者が異なる2通以上のプロポーザルが提出されたとき

（4）プロポーザル提出者が全省庁統一資格結果通知書を取得していない、またはJICAの事前の資格審査を受けていないとき

（5）JICAが定める「独立行政法人国際協力機構契約競争参加資格停止措置規程」（平成20年細則（調）第42号）に基づく指名停止を受けている期間中である者又は当該者が構成員となる共同企業体からプロポーザルが提出されたとき

（なお、プロポーザルの提出後であってもプロポーザル審査結果の通知前に指名停止を受けた者を含みます。）

（6）虚偽の内容が記載されているとき

（7）前項に掲げるほか、業務指示書又はコンサルタント等契約関連規程に違反したとき

【6．業務期間重複によるプロポーザル提出の制限】

（1）既に受注している案件または契約交渉中の案件と業務期間が重なる業務従事予定者を配置して応募することは認められません（ただし、業務期間を調整して重複を避けることができる場合、応募に支障ありません）。

（2）プロポーザルの提出期限を同じにする複数の案件に、業務期間が重なる業務従事者を配置して応募することはできません。

（3）業務期間が重複する可能性のあるJICAの他の業務実施契約（単独型）案件に応募し、選定結果が未通知である業務従事者を配置して応募する場合、応募中の案件を含めて2案件までであれば応募することができます。

【7．その他】

（1）登録制度は廃止いたしました。当機構にて行っております契約競争やコンサルタント契約に関心を持っていただいている方の情報をとりまとめたく、「情報シート」の提出をお願いしておりますので、ご対応の程よろしくお願い致します。

詳しくは、機構ホームページ「調達情報」>「事前資格審査制度」をご確認ください。情報シートの様式も掲載しております。

（2）不採用になったプロポーザル（正）及び見積書（正）は返却可能です。選定結果の通知日から2週間以内に、返却を希望する旨を調達部担当契約課にご連絡ください。連絡がない場合は機構で処分します。

（3）プレゼンテーションを行う案件については、原則、公示にて指定された場所においてプレゼンテーションを実施することとします。これによりがたい場合は、調達部担当者にご相談ください。なお、条件がそろわない場合には、プレゼンテーションを実施いただけないこともあります（その際は、プレゼンテーションの評価点がゼロとなります。）ので、ご承知おきください。

（4）航空運賃を見積る場合には、ZONE-PEX運賃を上限の単価として見積りを行って下さい。「業務実施契約等における正規制引航空運賃の利用について／通知（PR）第9-27004号」によりビジネスクラスの利用が認められる業務従事者の渡航については、ビジネスクラス正規制引運賃までを上限の単価として見積りを行ってください。

なお、実際の航空券の手配にあたっては、上記見積額を上限としつつも、業務実施上の必要による経路の変更、予約の変更等の必要な緊急時の対応も考慮しつつ、より効率的であるとともに経済的な航空券の手配に努めてください。

なお、業務に含まれる国内での会議等に出席するための旅費・交通費については、諸経費に含まれるとの整理をいたしますので、支給の対象とはなりません。

（5）先方政府から日本国政府に対して要請のあった専門家を派遣するための契約案件については、専門家を派遣する際には最終的に専門家の履歴を示した上で、先方政府の受入れを確認することが必要となります。

このため、先方政府からの受入れ確認が得られることが契約成約の条件となり、契約は受入れ確認が得られた後の締結となりますので、予めご承知おき願います。

番号：5 国名：シリア 担当：シリア事務所
案件名：シリア支援にかかる情報収集・確認調査（シリア支援検討業務）

1 今回契約予定のコンサルタント
シリア支援検討業務 3号

2 契約予定期間： 全体 2013年7月上旬から2013年10月中旬まで
業務予定期間（日数） 準備期間 派遣期間 整理期間 M/M
シリア支援検討業務 3 85 2 3.08
（現地：2.83M/M、国内：0.25M/M）

3 簡易プロポーザル提出部数、期限、場所
簡易プロポーザル：正1部写4部
見積書：正1部写1部
提出期限：6月19日(12時まで)
提出場所：調達部受付（JICA本部1F）

4 プロポーザル評価項目及び配点

- (1) 業務の実施方針
- | | |
|--------------------|----|
| ア 業務方針の的確性 | 6 |
| イ 業務方法の整合性、現実性等 | 12 |
| ウ 当該業務実施上のバックアップ体制 | 2 |
- (2) 業務従事者の経験能力等
- | | |
|------------------------------|----|
| ア 担当事項：シリア支援検討業務 | |
| （ア）類似業務の経験 | 40 |
| （イ）対象国又は同近隣地域若しくは同類似地域での業務経験 | 16 |
| （ウ）語学力 | 16 |
| （エ）その他 学位、資格等 | 8 |
- （計100点）

5 記載時留意事項

語学の種類：英語（語学は認定書（写）を添付してください。）

対象国/地域：シリア/全途上国

類似業務：案件形成・紛争国支援にかかる各種業務

6 条件

補強：認めない。

参加資格のない社等：特になし。

7 業務の背景と目的

2011年3月に勃発したシリア内戦では依然政府側と反政府勢力の衝突が継続している。国外に脱出する難民が100万人を超える一方で、シリア国内の経済・社会インフラや住居・学校・行政機関等も破壊され、250万人が国内避難民になり、このうち6万人が国内の避難民キャンプに滞在している。

反政府勢力は国内・国外、また文民組織・武装勢力を合わせ、300以上に分かれているとされ、全容をつかむことは難しい。国際社会に認知された主要な反政府勢力として「国民評議会」「国民連合」があり、更に2013年3月、暫定政府首相が選出され、組閣に入る見通しである。しかし、主要な反政府勢力も内部分裂が報じられており、見通しは依然不透明である。

国際機関・NGOはシリア国内向けに緊急・人道支援を実施している。ロシア・イランはシリア政府を通じ、また欧米・アラブ諸国等は反政府勢力を支援する「シリアの友人会合」の枠組みのもと、様々な支援を実施してきているものの、支援物資の配布には現政権との調整が必要となるため、特に政府の支配の及ばない地域には支援が行きわたっていない。このため、欧米・アラブ諸国等は、近隣国を経由して、シリア国内の、特に政府の支配の及ばない地域に向けた直接支援を検討し、少しずつ実施し始めている。

JICAはこれまで日本政府とともに、「シリアの友人会合」の枠組みの下、復興支援に向けた情報収集を継続して行ってきた。しかし、長引く内戦の影響で、シリア国内、特に政府の支配の及ばない地域の生活環境の悪化は著しく、現時点で可能な支援を検討し、実施することが喫緊に必要となっている。現在の支援体制を踏まえると直接支援を実施している国際機関、他ドナー、NGO等との連携が考え得るが、支援実施にあたっては、外国人の入国が困難な治安情勢、シリアを取り巻く複雑な政治情勢、多様な反政府勢力の動向、欧米・アラブ諸国等主要他ドナーの関心および動向等を十分考慮のうえ情報収集するとともに、直接支援を実施しているNGO等の実施能力/キャパシティを確認しながら、進める必要がある。

本業務は、現在のシリア国内向け支援の拠点となっているトルコ国内をベースとし、多様な反政府勢力の動向、主要ドナー・NGOの支援計画・実際の活動等について情報収集・分析し、状況を、それらをもとに現時点でJICAにより

可能な支援内容を検討することを目的としている。

8 業務の範囲及び内容

本コンサルタントは、現在ヨルダンのアンマンに退避しているJICAシリア事務所の指示のもと、トルコ国内に主として滞在し、シリアを取り巻く政治情勢、反政府勢力の動き、欧米・アラブ諸国等主要ドナーの動向、各種会合等の今後の動きにかかる情報、直接支援の計画・内容、また直接支援にかかわるNGO等の活動状況・実施体制・支援の実際等について情報収集を行う。それらをもとに、政府の支配の及ばない地域における援助ニーズの確認、連携可能な組織の有無、支援の実現可能性を分析する。

具体的担当事項は次の通りとする。

[シリア支援検討業務]

(1) 国内準備期間（2013年7月上旬）

ア 本調査に関連する既存文献、資料、インターネットから得られる情報等を含む関連情報を収集・分析し、業務内容を把握する。

イ 対処方針会議に出席する。

(2) 現地派遣期間（2013年7月上旬～2014年10月中旬）

ア ヨルダンのアンマンにて、JICAシリア事務所との打ち合わせに参加する。

イ 本業務に関連する追加の文献、資料、インターネットから得られる情報等を含む関連情報を収集・分析する。

ウ 現地での業務行程、各組織との協議・収集する情報内容等（案、和文）を作成する。

エ トルコ入りする日程について、シリア事務所と協議の上、合意する。

オ シリア事務所員（出張）とともにトルコ国内で以下の業務を行う。

(ア) シリア側関係機関（現時点では援助調整ユニットを想定）や米・英・仏・伊・独・蘭・EU、湾岸諸国等の主要ドナーとの情報交換を行う。初回のアボはJICAシリア事務所で行うが、同行する所員は2-3日でアンマンに戻るため、その後は各機関に直接アボを取り、情報交換を行なう。上記以外のステークホルダーについてもシリア事務所と協議の上、情報交換を行う。情報交換の内容は、シリア国内（特に政府の支配の及ばない地域）の状況と見通し、直接支援の計画・規模・内容・進捗状況（実施したかどうか）・委託機関情報（NGO等）等を想定する。

(イ) 支援を委託可能な機関に対しては、他ドナーとの役割分担、実際の活動内容、実施体制、実施スケジュール、実施方法、活動における制約、今後の見通し等にかかる情報収集を行なう。

(ウ) シリア事務所員が行う個別協議や所員が参加する会合とともに参加し、情報収集・分析を行う。

カ シリア情勢と今後の見通し、各国の対応と支援計画及び実績、NGO等委託機関の活動内容・実績、実現性の高い支援内容、制約要因、今後の支援策(案)を含む総合的な見通しについて調査結果を取りまとめる。

キ 帰国前にアンカラ及びアンマンに立ち寄り、現地調査結果の概要をJICAシリア事務所及びトルコ事務所に報告する。

(3) 帰国後整理期間（2013年10月中旬）

ア 業務報告書（案）（和文）を作成する。

イ 帰国報告会に出席し、現地調査結果を報告する。

9 成果品等

(1) 業務報告書（案） 和文2部（JICAシリア事務所）

上記「8 業務の範囲及び内容」の「(2)カ」に基づく業務報告書を取りまとめる。なお、国際機関・他ドナー・NGO等が実施している直接支援事業について、事業のプロポーザル、事業実施契約書等の資料（英語のみで可）があれば添付する。

10 特記事項

(1) 業務実施上の留意点

日本・アンマン間の航空券、契約期間中の旅費（日当・宿泊費）は契約に含む。なお、積算可能な費用項目については

http://www.jica.go.jp/announce/manual/form/consul_gt/index_201301.html

プロポーザルの提出（見積書）を参照のこと。

(2) プロポーザル提案事項

業務工程表をプロポーザルにて提案すること。

(3) 参考資料

特になし。

(4) 必要予防接種 無

(5) その他

ア アンマンからトルコへの航空券、トルコ国内の移動にかかる航空券はJICAシリア事務所にて手配する。

イ 必要に応じて通訳(英語 アラビア語、英語 トルコ語)を備上する。

ウ 本業務の従事者は次の通り。総括及び協力企画団員は2-3週に1度、3-4日を目途にトルコに出張予定。

(ア) 総括（JICA）

(イ) 協力企画（JICA）

(ウ) シリア支援検討業務（コンサルタント）